

2025年3月期
第2四半期

決算補足 説明資料

11月8日



anicom

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード：8715

全体目次

1

第2四半期 決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

1

第2四半期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分析)
5. 貸借対照表 サマリー





1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)

経常収益

32,903 百万円

前年同期比**10.3%増**(3,066百万円増) 計画は**32,000百万円** **2.8%増**
うち、保険引受収益は前年同期比**7.5%増**(2,012百万円増)

のれん償却前 経常利益

3,254 百万円

前年同期比**20.4%増**(551百万円増)

経常利益

3,130 百万円

前年同期比**20.3%増**(528百万円増) 計画は**2,800百万円** **11.8%増**

堅調なペット飼育需要を新規契約獲得に確実に繋げ、業務効率化の推進等により増収増益

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は**11.7万件**、同保有契約件数は**123.6万件**(7.2%増)と**堅調な伸長を継続**
- 保険事業以外の、その他経常収益は**3,599百万円**(33.2%増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は**516百万円**(43.2%増)となり、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、**計画達成ペースで進捗**

■ 経常利益

- 契約獲得コストの改善や、業務運営の効率化により、**大幅増益、対計画も達成ペースの進捗**



2. 損益計算書 サマリー

(百万円)

	24年3月期 2Q	25年3月期 2Q	対前年同期比 増減率
経常収益	29,837	32,903	10.3 %
保険引受収益	26,774	28,787	7.5 %
資産運用収益	361	516	43.2 %
その他経常収益	2,701	3,599	33.2 %
経常費用	27,235	29,773	9.3 %
保険引受費用	18,392	19,930	8.4 %
・正味支払保険金	(15,079)	(16,507)	9.5 %
・損害調査費	(556)	(566)	1.7 %
・諸手数料及び集金費	(2,564)	(2,665)	3.9 %
・支払備金繰入額	(191)	(164)	△ 13.8 %
・責任準備金繰入額	-	(26)	- %
(うち未経過保険料)	-	(844)	- %
(うち異常危険準備金)	-	(△ 818)	- %
資産運用費用	2	2	30.2 %
営業費及び一般管理費	7,863	8,478	7.8 %
その他経常費用	978	1,361	39.2 %
のれん償却前経常利益	2,703	3,254	20.4 %
経常利益	2,601	3,130	20.3 %
純利益	1,756	2,180	24.1 %



2. 損益計算書 サマリー

(参考)アニコム損保 保険重要指標

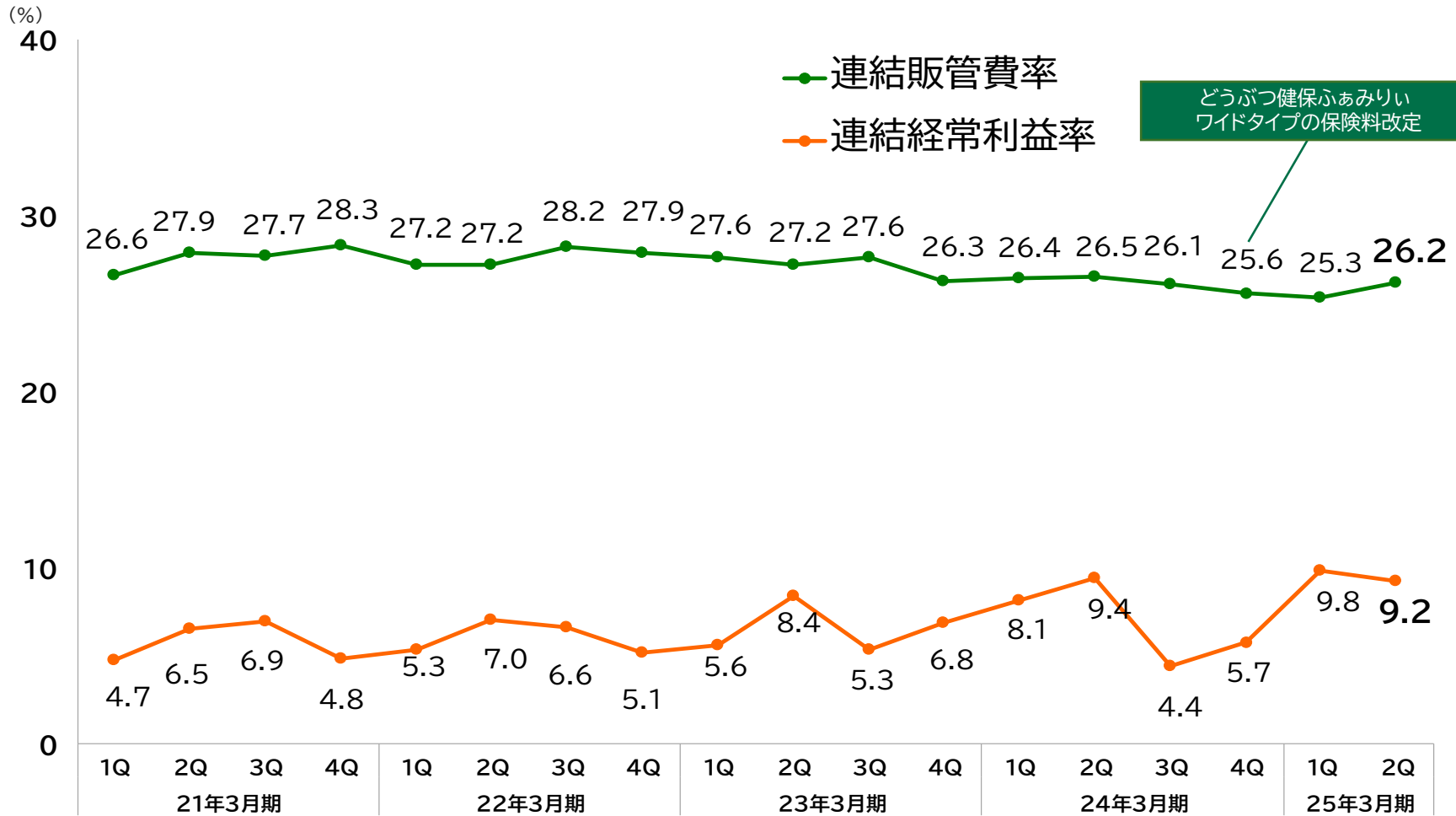
	24年3月期 2Q	25年3月期 2Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
既経過保険料	26,108	28,076	7.5%
発生保険金(損害調査費含む)	15,827	17,238	8.9%
E/I損害率①	60.6%	61.4%	0.8pt
既経過保険料ベース事業費率②	33.4%	32.1%	△1.3pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(10.1%)	(9.9%)	(△0.2pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	94.0%	93.5%	△0.5pt



3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



どうぶつ健保ふぁみりい
ワイドタイプの保険料改定

4. 経常利益の増減要因(対前年同期差分分析)

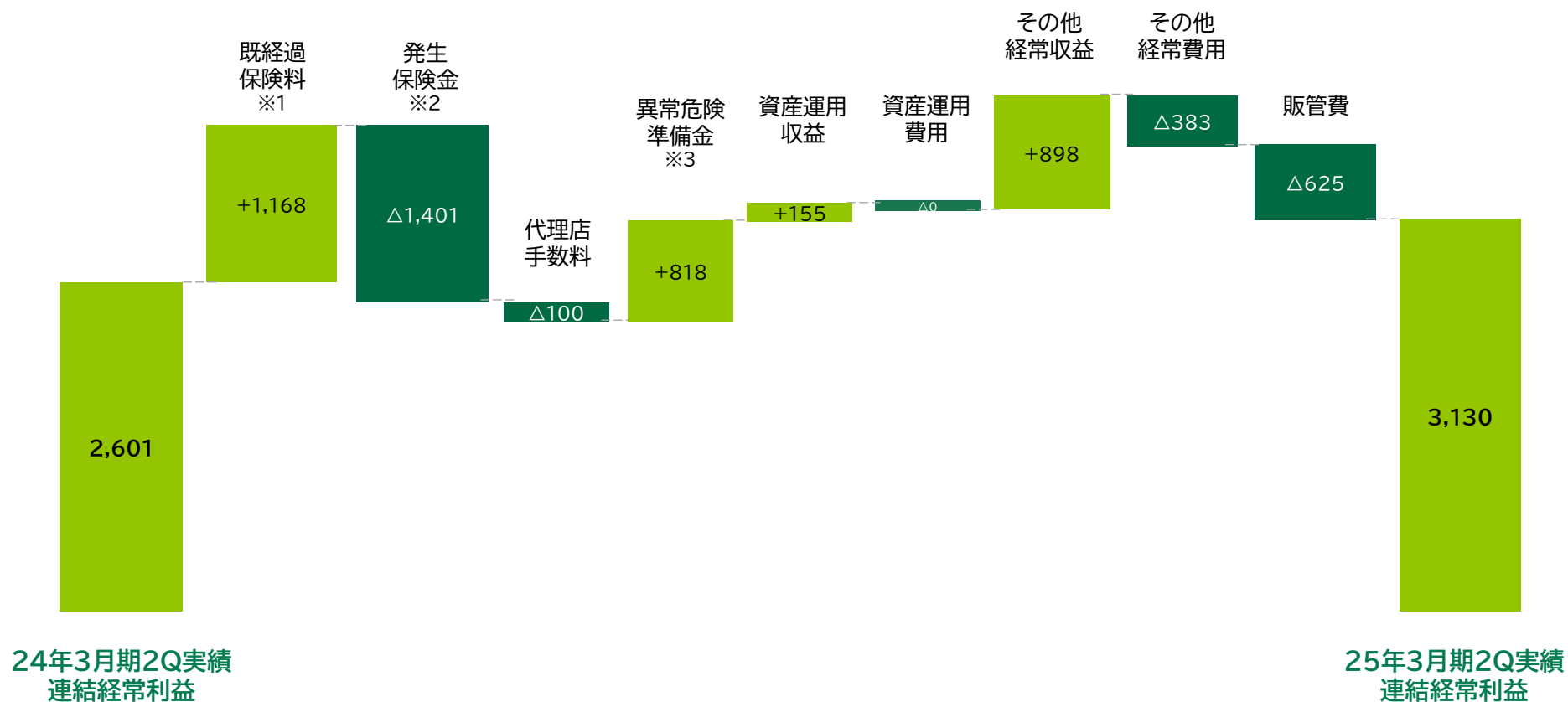


※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額

※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額

(百万円)





5. 貸借対照表 サマリー

	24年3月期末	25年3月期 2Q	対前年末比 増減率
資産合計	66,357	66,430	0.1 %
現金及び預貯金	23,879	21,271	△ 10.9 %
有価証券	27,510	28,709	4.4 %
固定資産	6,925	6,997	1.0 %
その他資産	8,041	9,452	17.5 %
負債合計	36,204	36,369	0.5 %
保険契約準備金	24,551	24,742	0.8 %
うち支払備金	3,245	3,410	5.1 %
うち責任準備金	21,305	21,331	0.1 %
社債	5,000	5,000	— %
その他負債	6,653	6,627	△ 0.4 %
純資産合計	30,152	30,061	△ 0.3 %
株主資本	31,144	31,227	0.3 %
評価・換算差額等	△ 1,248	△ 1,439	— %
その他	256	273	6.5 %
負債・純資産合計	66,357	66,430	0.1 %

2 重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況（保険事業・資産運用・その他）
2. 重点施策の進捗状況（シナジー創出事業）
3. トピックス





1. 重点施策の進捗状況 (保険事業・資産運用・その他)

保険事業

新規・保有契約の状況

- ▶ 新規契約獲得件数は4-9月で11.7万件超
24年9月末の保有契約件数は123万件を突破

保険料の改定

- ▶ ワイドタイプ(限度日数なし)商品につき、保険料を平均で6.6%の改定(引上げ)
※24年12月1日が始期日となる契約から適用

商品・サービスの拡大

- ▶ 「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、4-9月の継続率は88.1%と安定して高いレベルで推移

資産運用

- ▶ 柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成
インカム収益を着実に積上げながら、計画達成のペースで進捗

その他

- ▶ 「従業員一人一特許戦略」の推進
24年9月末 発明者数132名 (20年12月末 発明者数13名)

【分野別 特許件数】 ※24年9月末時点

	画像認識AI	遺伝子 フード・腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許件数	7	7	3	3	20

【取得した特許の例】

特許7559010号 「フード提案システム及びフード提案方法」
ペットの品種ごとの保険金の請求割合に基づいて、適したフードを提案

- ▶ 「2024年 オリコン顧客満足度®調査」のペット保険
ランキングにおいて「保険金・給付金」と「窓口精算」
項目で第1位を受賞
「保険金・給付金」は8年連続の受賞



2024年 オリコン顧客満足度®調査 ペット保険 保険金・給付金 第1位 / 2024年 オリコン顧客満足度®調査 ペット保険 窓口精算 第1位



2. 重点施策の進捗状況 (シナジー創出事業)

産まれる前から

川上



日々の暮らし

川中



治らないを治す

川下



ブリーディングサポートの強化

- 動物愛護法の改正も踏まえ、各施策を強力的に推進中

マッチングサービス事業の強化

- 需要の好調が継続し、『みんなのブリーダー』『みんなの子猫ブリーダー』の成約数が順調に伸長



マッチングサービス事業(シムネット)24年度2Q業績

■売上高 : 1,393百万円(前年度 1,033百万円)

■経常利益 : 201百万円(前年度 ▲26百万円)

注)経常利益はのれん償却後

健診+口腔・腸内ケア商材の事業化

- 4-9月の「どうぶつ健活」申込累計 11.7万件超
- 「どうぶつ健活」を通じた口腔・腸内ケア商材のテストマーケティング

●インターペット大阪でのアニコムブース出展

■腸内フローラの多様性を高める「7Days Food」の試食・販売



■MA-T®を用いた歯みがきジェル「CRYSTAL JOY」の試用・販売



動物医療関連(予防～一般・再生医療)

➢ 再生医療事業

- 再生医療を用いた「治療法」「予防法」の確立
- QOLの改善へ向けた研究

■幹細胞投与を実施した犬の一例(15歳 柴犬)

【投与前】
ぎこちなく、ゆっくりと歩行



【投与後】
全ての足を使い自然に歩行



➢ 動物病院事業 24年度9月末 57病院



アニコム
どうぶつ病院グループ
いつも
すべての「生命」の幸せのために

3. トピックス① 予防型ペット保険としてのブランド価値向上



アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」が2024年度グッドデザイン賞を受賞 “入って健康になる保険”として、ペット保険初



アニコム損保のどうぶつ健保は、
「入って健康になる保険」としてペット保険で初めて*
グッドデザイン賞を受賞しました。

*受賞者調べ

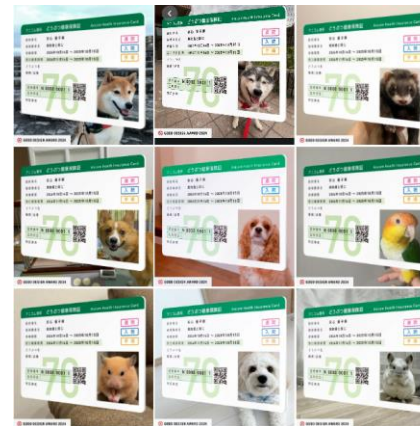


【審査委員による評価コメント】

過去の保険金請求データと健康状態の検査結果を照合し、病気のリスク判定結果や無料健康診断を提供することで、ペットの健康な暮らしを支えるサービスである。私たちが保険に加入する主たる理由は、万が一のときの保障を担保することにある。しかし保険加入者にとっても事業者にとっても、保険が使われないことが本当は最も望ましい状態であることを理解し、その思いをサービスに落とし込んだ優れた取り組みであるといえよう。



▲『どうぶつ健保』の強みであるどうぶつ健康保険証と腸内フローラ測定を訴求



▲受賞記念として保険証のARを用いたSNSキャンペーンを実施



▲受賞祝賀会の様子(左:アニコム損保代表取締役 野田真吾、右:アニコムホールディングス 常務執行役員 高橋祐幸)



3. トピックス② 資本政策・株主還元

自己株式の取得状況

■ 概要

- ・ 2023年5月25日、SMRの算出誤りに起因する約 40 億円を自己株式取得に充当する方針を決定
- ・ 2023年度は 10 億円を上限として、2023年9月21日までに自己株式の取得を完了
- ・ 2024年度は残額の 30 億円を上限として、2024年5月27日～2025年3月31日の期間で取得予定
- ・ **2024年9月末現在、約16億円を取得済**

第2回無担保社債の発行

■ 社債発行条件

(1)社債の名称	アニコム ホールディングス株式会社 第2回無担保社債(特定社債間限定同順位特約付)
(2)社債総額	金50億円
(3)償還期限	2029年11月1日(5年債)
(4)利率	年0.984パーセント
(5)払込期日	2024年11月1日
(6)取得格付	A(株式会社日本格付研究所)

■ 資金使途の概要

- ・ 新規事業拡大に向けたペット業界におけるインフラビジネスや、関係会社に対する投融資など

3

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ (ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ (損害率(E/I)、既経過保険料ベース事業費率)





1. 主要経営パラメータ

	24年3月期 2Q	24年3月期末	25年3月期 2Q	対前年同期比		対前期末比	
				件数	率	件数	率
① 保有契約数	1,154,322 件	1,193,560 件	1,236,904 件	82,582 件	7.2 %	43,344 件	3.6 %
② 新規契約数	110,883 件	223,289 件	117,552 件	6,669 件	6.0 %	-	-
③ 継続率	88.2%	88.2 %	88.1 %	-	-	-	-
④ 保険金支払件数	2,199 千件	4,381 千件	2,285 千件	86 千件	3.9 %	-	-

25年3月期末 (5月9日予想)
1,280,000 件
230,000 件
88.2 %
4,800 千件

	24年3月期 2Q	25年3月期 2Q	対前年同期比 増減
⑤ E/I損害率	60.6 %	61.4 %	0.8 pt
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	33.4 %	32.1 %	△1.3 pt
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	94.0 %	93.5 %	△0.5 pt

25年3月期末 (5月9日予想)
60.9 %
32.3 %
93.2 %

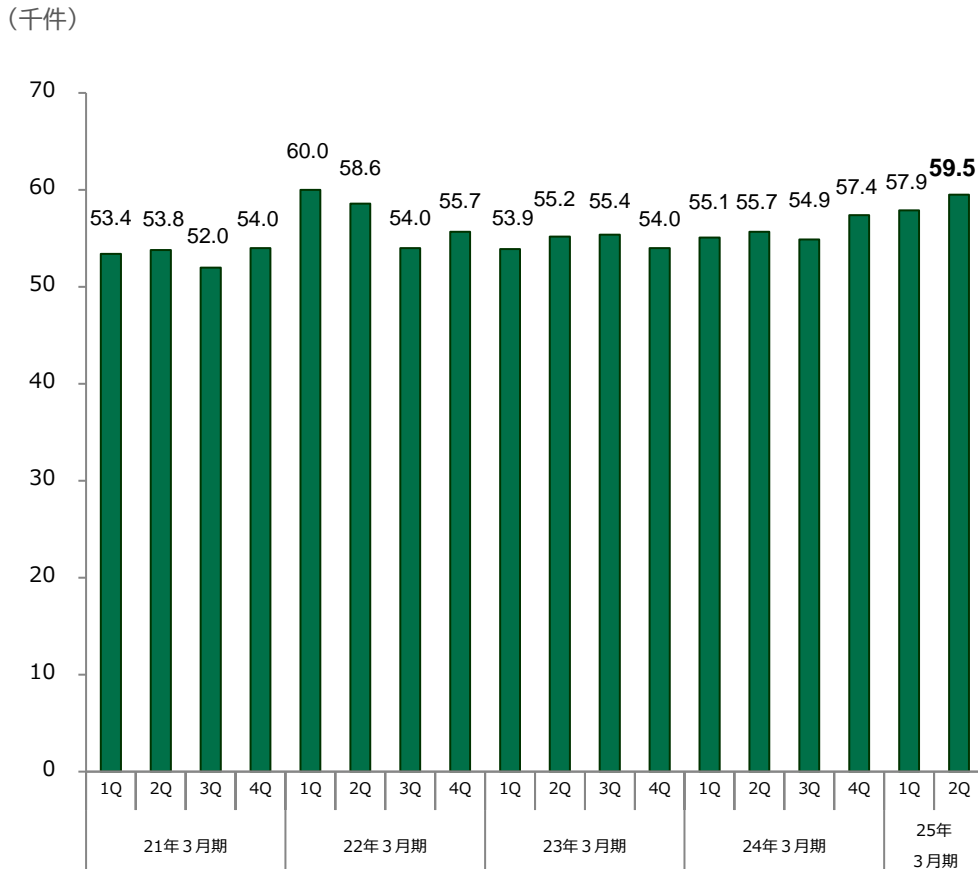
	24年3月期末	25年3月期 2Q	対前期末比 増減
⑧ 単体ソルベンシー・マージン比率※	333.7 %	339.9 %	6.2 pt

	24年3月期 2Q	25年3月期 2Q	対前年同期比 増減
⑨ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	108,207 件	117,004 件	8.1 %
⑩ 対応動物病院数	6,850 病院	6,919 病院	1.0 %
⑪ 遺伝子検査検体数	34,281 件	33,787 件	▲1.4 %

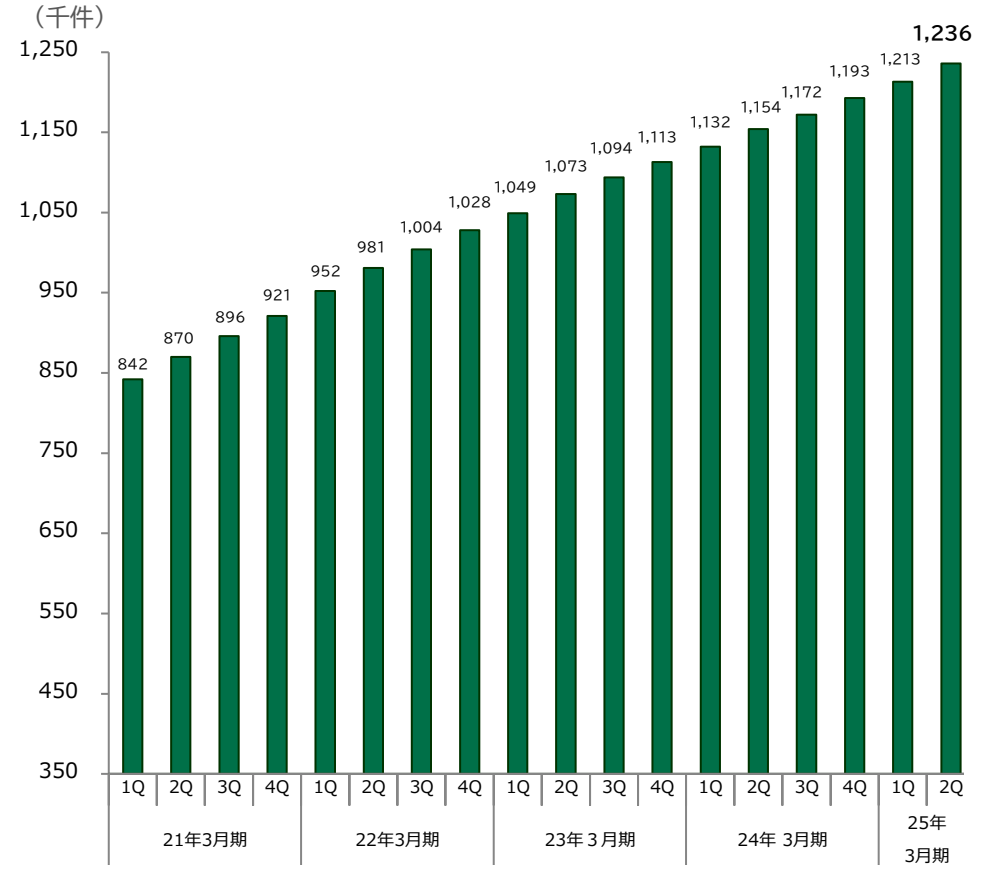


2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ

新規契約獲得件数の四半期推移



保有契約件数の四半期推移



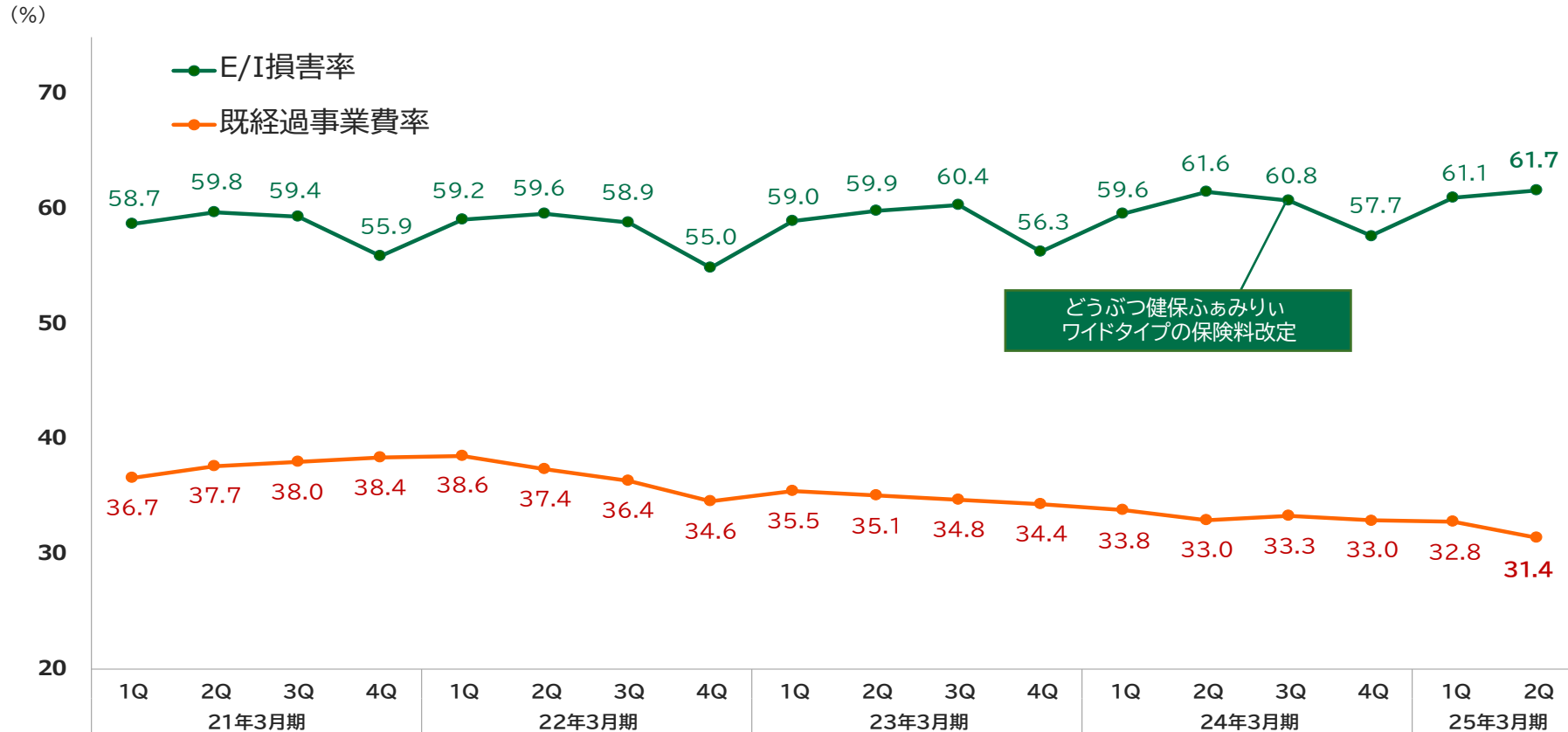


3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

【参考情報】

- 15年3月期 1Q ■ 保険料改定
・平均12%の改定
- 15年3月期 3Q ■ 限度日数付き新商品
■ 健康割引制度導入
- 18年3月期 2Q ■ 保険料率改定
・8歳以上の保険料改定
- 19年3月期 3Q ■ 「どうぶつ健活」の導入
■ 保険料改定
・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



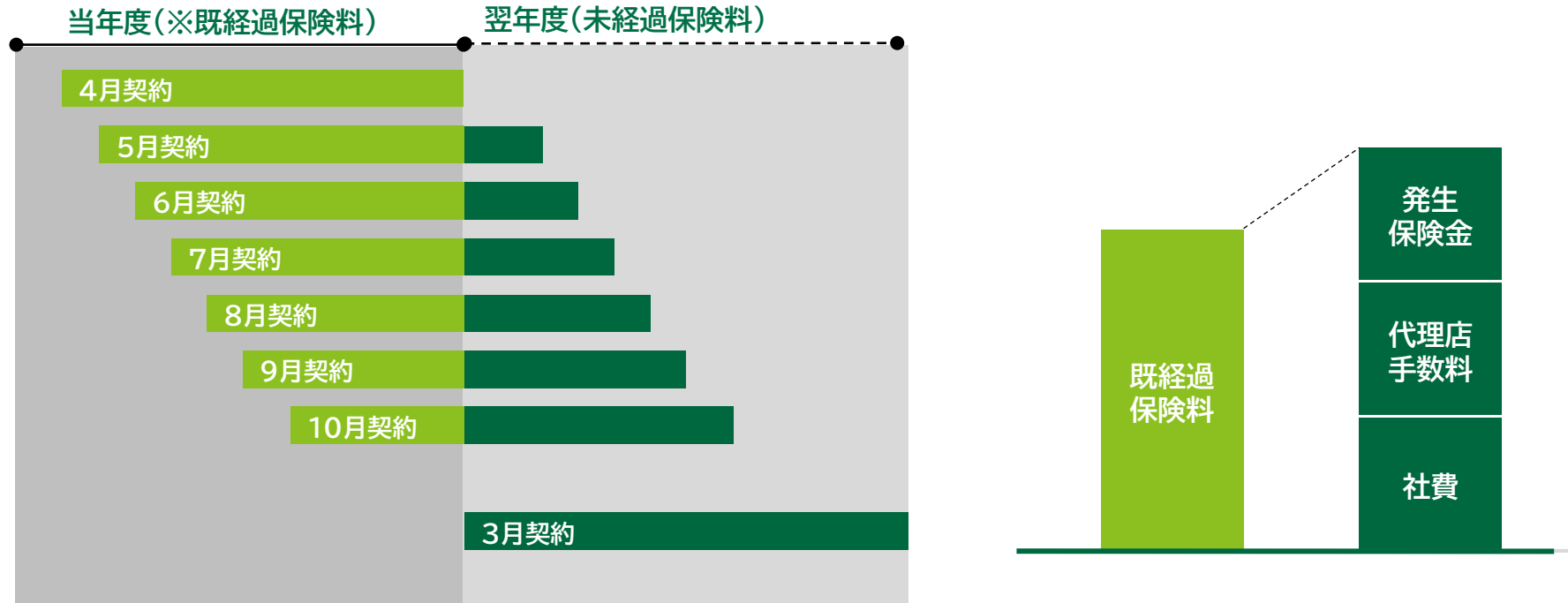
どうぶつ健保ふぁみりい
ワイドタイプの保険料改定



(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。